

儒教と入信

2023年6月1日 木曜日

現時点では、新儒教の創造主は新儒教への入信の仕方を厳密には定めていない。ここでは、彼は新儒教への入信を便宜的に提示する。より厳密な入信の仕方は新儒教から導かれる。

【入信の仕方】

現時点では、入信の仕方は次である。

- (1) 入信希望者は入信の希望を伝えるメールをお問い合わせに送る。
- (2) 入信希望者は教義を読み、それを実践する。
- (3) 入信希望者は個人や組織を彼自身で形成する。
- (4) 創造主や統治者、その他の集団が入信希望者を正式に入信させる。

彼、または宗教団体は新儒教を過去から現在へと実践してきた人間を入信させる。入信希望者は個人、または組織を彼ら自身で形成して、教義を実践する。その後、入信希望者は互いに合流することができる。組織は非公式で良く、公的、または法的な存在である必要はない。誰かが作った新儒教システムに後から入ってくるのではなく、希望者が新儒教システムを現実には召喚して、システムを彼自身で形成して、実践する。

【団体の設立】

キリスト教には、プロテスタントとカトリックが存在する。プロテスタントは野良や在野のようであり、ローマ教皇のような巨大な組織を形成していないように見える。それに対して、カトリックは巨大な組織を形成している。新儒教はカトリックとプロテスタントの組みを採用する。つまり、新儒教では、巨大な組織が形成される、かつ在野や野良が存在する。ただし、大きな組織は後から形成される。

【人種及び民族と入信】

アブラハムの宗教が実質的にはコーカサス人種のための宗教であるように、新儒教はモンゴロイド人種のための宗教である。そこで、彼は次の思考規範を提示する。

思考規範1 もしある主体が新儒教徒であるならば、その主体はモンゴロイド人種である、またはモンゴロイド人種から遺伝的に分岐した人種である。

新儒教の基本的な方針として、自分で自力で宗教を作るがある。オーストラロイド人種やネグロイド人種は彼ら自身の宗教を彼ら自身で自力で形成することを勧める。

【小人種と民族】

新儒教は文明宗教である。そのため、新儒教徒には、東洋人や東南アジア人、アメリカ先住民が存在する。彼は小人種や民族ごとの組織を提示する。例えば、東洋人は東洋人の新儒教システムを彼ら自身で形成する。東南アジア人は東南アジア人の新儒教システムを彼ら自身で形成する。アメリカ先住民はアメリカ先住民の新儒教システムを彼ら自身で形成する。

同様に、大和民族は大和民族の新儒教システムを彼ら自身で形成する。朝鮮民族は朝鮮民族の新儒教システムを彼ら自身で形成する。漢民族は漢民族の新儒教システムを彼ら自身で形成する。部族を考える場合、東北部族は大和民族の新儒教システムを彼ら自身で形成する。もしある部族や民族、小人種が彼ら自身のシステムを形成できないならば、彼らは別の部族や民族、小人種に吸収される。

例えば、ある新儒教は新儒教・東洋人・モンゴル人派である。別の新儒教は新儒教・東洋人・日本人派である。別の新儒教は新儒教・東南アジア人・タイ人派である。

【組織の中心】

組織の中心は大和民族の新儒教システムである。部族的には、組織の中心は東日本部族の新儒教システムである。ただし、そのシステムが漢民族やモンゴル民族の新儒教システムを外部から統治するわけでない。なお、この文章は小人種同士や民族同士、部族同士の争いの防止のためである。相続に関する争いに見られるように、ちゃんと決めないと、争いが生じる。

【入信の禁止】

なお、新儒教の創造主を批判した主体は新儒教には永続的に所属することができない。その主体は永遠に儒教徒でない。

思考規範1 もしある主体が新儒教の創造主を批判するならば、その主体は新儒教には永続的に所属しない。

上記の思考規範は電街や匿名にも適用される。口語的には、もしある主体が新儒教の創造主を批判するならば、その主体は新儒教には永続的に所属することができない。

【お金と性】

入信に関して、お金と性に関する争いは容易に予想される。新儒教では、たとえある主体が莫大な富を提示するとしても、もしその主体が新儒教の入信に関する基準を満足しないならば、その主体は新儒教には所属しない。彼はこの思考規範を採用する。同様に、たとえある主体が性を提示するとしても、もしその主体が新儒教の入信に関する基準を満足しないならば、その主体は新儒教には所属しない。つまり、任意の主体はお金や性を悪用して、新儒教徒になることができない。

